

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-1 1

学校名・団体名	神栖市立大野原西小学校
HPアドレス	http://www.sopia.or.jp/nishi/wp/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	自ら進んで考え，表現できる児童の育成
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>1 活動・研究の意義 本校児童は話し合い活動に意欲的に取り組むが，自分の考えを数学的な表現を用いて説明したり，話し合ったりする力が弱い。そこで，主体的に学習に取り組み，自分の考えを表現したり，伝え合う活動を充実させたりすることが必要であると考えた。</p> <p>2 活動・研究の目的 児童が主体的に学習に取り組み，筋道を立てて考え，表現する能力を育てるための算数科の学習方法を追究する。</p>	

1 時期
平成27年4月～平成28年3月

2 活動対象・教科・ねらい

- (1) 対象者 全学年
- (2) 教科 算数科
- (3) ねらい

○ 児童が主体的に学習に取り組み、筋道を立てて考え、表現する能力を育てるための算数科の学習方法を追究する。

3 実践内容

(1) 学びの手順の統一

授業の基本的な流れを「つかむ」→「考える」→「深める」→「確かめる・振り返る」とし、学びの手順を全学年学級で統一した。また、授業の導入時には既習事項を確認し、見通しをもたせることで自力解決の糸口とした。

(2) 板書とノート指導の一体化

板書も学びの手順に合わせ、黒板を3分割で記述することとした。左が学習課題や見通し、中央が各班の考え、右が学習のまとめである。板書とノートの一体化を図り、板書の基本となる構成を記号化した(図1)。児童はノートの一列目に縦線を入れ、その線の左側に記号、右側に考えやまとめを書くようにした(図2)。

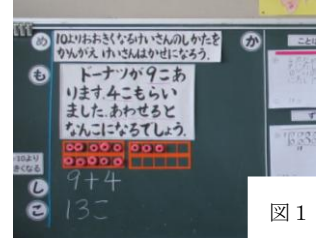


図1

(3) 算数キーワード(算数用語集)の掲示

数学的な表現や用語を理解し活用できるようにするために、各学年の単元毎のキーワードとなる基礎的な用語の洗い出しをした。それらを教室の側面に掲示し、児童が参考となるようにした。既習内容の振り返りも一目でできるように工夫したことで、分かっているもうまく表現できなかった児童の手助けとした。

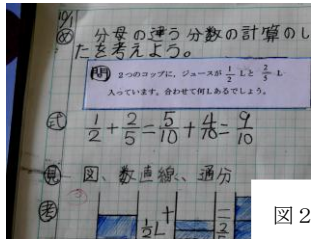


図2

(4) 教室の算数コーナーの設置

前時の学習の振り返りや自力解決の手立てとして活用するために、前時での児童のノートやワークシート、資料等を掲示した。

(5) 話し合い活動を活性化させるためのマニュアル作成

① 児童司会の進め方マニュアル

児童司会で授業をスムーズに進めさせるために、司会者用のマニュアルを作成し、算数科だけでなく他の教科にも活用できるようにした。また、低学年から児童司会を取り入れられるように、発達段階に応じて内容と表現を検討し、低学年用と中高学年用のマニュアルを作成した。

② 話し合い活動マニュアル

話し合い活動では4人グループを基本とし、一人一人が主体的に活動できるように司会、記録、発表、アドバイスに分担した。それぞれの係が何をするか、どのようなことを言えばよいか、が分かるようにした(図3)。

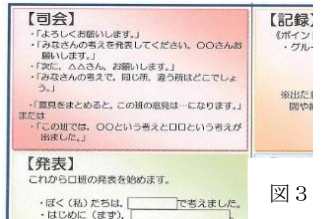


図3

③ 発表マニュアル

自分の考えを分かりやすく説明できるようにするために発表マニュアルを作成した。

④ まとめ方マニュアル

発表からのまとめ方を「独立的な多様性」、「序列化可能な多様性」、「統合化可能な多様性」、「構造化可能な多様性」の4つタイプとして捉えた。高学年では児童司会がこのまとめ方マニュアルを活用して各班の考えを分類・統合し、まとめることができるようにした。

(6) ICTの活用

学習活動を活性化させるためにICT機器を活用した。特に利用したのはフラッシュ型教材、デジタル教科書、書画カメラである。それぞれの特長を生かし、学習場面で効果的な活用を図った。

① フラッシュ型教材……学習内容を振り返り、既習事項の定着を図るために活用。

② デジタル教科書……児童と同じページを表示し、注目すべき点を明確にするために活用。

③ 書画カメラ……児童のノート等を拡大表示することでクラスワークでの発表補助資料として活用(図4)。

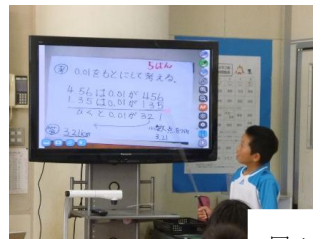


図4

4 成果と課題

(1) 成果

○ 学びの手順の統一により、学年や担当が替わっても学習の進め方が変わらないので、児童が安心して授業に取り組み、集中できるようになった。また、単元の課題や学習計画を教師と児童が共に話し合うことで、主体的に取り組めるようになった。

○ 板書とノート指導の一体化を図ったことにより、自分の考えを記述しやすくなり、グループ内で自信をもって発表できるようになった(図5)。

○ 算数キーワードを掲示することにより、それらを参考に記述する児童の姿が見られ、自分の考えを表現できる児童が増えてきた。また、既習内容の振り返りもできるため、思考や表現につまずいていた児童への支援となった。

○ ICT機器を活用することで授業での説明や児童の発表が分かりやすくなり、話し合い活動の活性化につながった。

○ 「発表マニュアル」を作成し、発表の仕方を統一したことにより、各班の代表者がスムーズに発表できるようになった(図6)。



図5

(2) 課題

○ 多様な考えを引き出したり、表現力を高めたりするために学習課題設定の工夫をする。

○ 話し合い活動を充実させることで、主体的に学習に取り組む児童が増えたが、自他の考えを生かして自らの考えを深めるまでには至っていないこともあるので、話し合いがより活性化するための手立てや算数的活動の工夫改善をする。

○ 表現力を一層向上させるために、すべての教科領域において自分の考えを説明する場を常に設けていく。



図6